

「生権力とセクシュアリティ」

講師： 檜垣 立哉 （大阪大学人間科学研究科准教授）

要旨： 生権力論とは、フーコーがその後半生の著作において一時期利用した概念であり、この概念の周囲に、レイシズムやファシズムへの歴史転換の位相の描出はもとより、リスク・セキュリティー・リベラリズム・統治性などに関する、きわめて多様な問題群を配置している。また、この概念は、近年のグローバル化や、生命・情動的な水準での新たな管理社会の進行について、解読格子のような役割を果たしてもいる。ここでは、こうした「生権力論」の一種の操作概念としての有効性を確認しながら、『性の歴史』および、その議論を拡大したアガンベンの議論に引きつけつつ、「親密圏」的なセクシュアリティに関わる位相が、生命を対象とする生権力の政治性とどのように関連しているかについて考えたい。性と社会、私的なものと公的なものが曖昧になる領域、責任と無責任（意識と無意識）、これらについて、たんに社会・時代現象的なものにとどまらず、フーコーが描き出している概念の原理性を引き出すように捉えたい。

講師略歴： 1964 年生まれ。専門は現代フランス哲学。東京大学文学部哲学科博士課程中途退学。現在、大阪大学大学院人間科学研究科准教授。現在の研究は、ドゥルーズやフーコーを中心とした現代フランス思想の系譜とその展開、さらには西田幾太郎や京都学派を軸とした近代以降の日本の哲学の可能性について、原理的・実践的な側面を含め考えること。主な著作に、『生と権力の哲学』（2006）、『生命と現実—木村敏との対話』（共著、2006）、『ドゥルーズ／ガタリの現在』（編著、2008）などがある。

日時 2008年2月15日 17:00～19:00

場所 大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）

東館303教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

